

# 令和 4 年度入試

## 國學院大學経済学部 課題レポート

國學院大學入試委員会編

### はじめに

このパンフレットは令和4年度入試用です。令和3年9月から11月にかけて実施される國學院大學経済学部の総合型・学校推薦型選抜入試（AO入試のK-ENT課題レポート+面接型、指定校制推薦、院友子弟等特別選考）において使用します。

経済学部ホームページなどには、経済学部に入学するのにふさわしい学生像として、「アドミッション・ポリシー」が示されています。

学部全体のアドミッション・ポリシーとともに、学科ごとに、どのような学問分野に関心があり、どのような学生になりたいと望む者が、その学科に入学者としてふさわしいかが学科アドミッション・ポリシーとして明記されていますので、ご確認ください。

本レポートの課題は、これらの学科アドミッション・ポリシーの中から、特に重要と思われる学問分野を選び作成しています。すべての分野を網羅はできていませんが、このレポートにどの程度意欲的に取り組むことができるかによって、学科ごとの適性を判断します。3,000字程度という文字数も、意欲と適性を判断するためのものです。

各課題には、調べる手順および課題文献が指示されていますので、それに従ってレポートを作成してください。課題で示されている課題文献は必ず目を通してください。手順に従った上で、各自の関心に従って、さらに信頼に足る文献やデータを探し、それらを追加して論を組み立て、自分なりの結論を導いてください。課題文献も含めて参照した全ての文献およびウェブページアドレスは、必ず末尾に明記するようにしてください。なお、ウェブページの使用については、本当に信頼できるサイトであるかどうか、十分に吟味した上で、使用するようにしてください。

なお、小論文やレポートの執筆に関して不安がある場合は、以下を参照することを推奨します。

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版。

この本で示されているようなレポートの書き方の基本的なルールを守ってください。ルールを守っている前提で、初めて内容に対する評価をおこなえます。

## 経済学科

### ●課題 A 中国はなぜ、どのように経済大国となったのか

中国の GDP（国内総生産）は 2030 年までに米国を抜いて世界一になるとみられています。開発途上国であった中国は 1980 年代から爆発的な高度成長の時代に入り、世界に大きな影響を与える経済大国へと変貌しました。その要因はいったい何だったのでしょうか。

20 世紀後半から現在まで中国が経済大国となって行く要因とプロセスについて、課題文献としてリストアップしたエッセイ①と書籍（②～⑤）を主な典拠として 3,000 字程度のレポートを執筆してください。レポート執筆にあたっては以下の（1）～（6）のステップに留意してください。また、課題文献を含め参考・引用したデータや文献については、レポートの末尾に明記してください。課題文献以外の資料を使ってもかまいません。その場合も出典を明記してください。

- （1）19 世紀半ばから 20 世紀半ば（おおむねアヘン戦争から第二次世界大戦終結まで）の世界史における中国の状況について簡潔に述べてください。
- （2）第二次世界大戦終結年からおおむね 1979 年に至るまでの中国の経済システムと経済状況について述べてください。
- （3）80 年代以降に中国が開発途上国から脱出するきっかけとなった大きな政策転換とその効果について丁寧に述べてください。
- （4）世界経済のグローバル化が中国にどのように有利に作用したのかについて述べてください。
- （5）中国経済の巨大化が世界経済にもたらした課題があるとすれば、それを簡潔に述べてください。
- （6）中国経済に懸念材料があるとすれば、それを簡潔に述べてください。

### 課題文献

- ①高橋克秀（2021）「2035 年の中国の経済規模～米国に匹敵する可能性」自然総研経営レポート アジア経済ウォッチング 2021 年 1 月号
- ②梶谷懐（2018）『中国経済講義・統計の信頼性から成長のゆくえまで』中公新書
- ③東大社研現代中国研究拠点編（2020）『現代中国ゼミナール 東大駒場連続講義』東京大学出版会
- ④高原明生，前田宏子（2014）『開発主義の時代へ 1972-2014 〈シリーズ 中国近現代史 5〉』岩波新書
- ⑤厳善平（2021）『超大国 中国のあゆみ』晃洋書房

※①についてはインターネット ([https://www.toyro.co.jp/business/bn\\_asia.html](https://www.toyro.co.jp/business/bn_asia.html)) からダウンロードできる。

●課題 B 改めて考える自治体（市町村）の課題とそれを乗り越える方向性

①は 10 頁で「本書は、はからずも出現した現代の『移動する村』に学ぶことによって、信頼を失いかけている自治体の政治や行政を再構築することを第 1 の目的としている」と述べています。著者は、自治体（市町村）の課題を、現代の「移動する村」を通して浮きぼりにし、その課題を乗り越える方向性を示すことを試みています。

そこで、参考文献①を熟読し、以下のステップで考察することで、皆さんも、現代の「移動する村」を通して自治体（市町村）の課題とそれを乗り越える方向性について、まとまりのあるレポートを 3,000 字程度で執筆してください。

- (1) ①を読み、現代の「移動する村」がなぜ現れたのかを説明した上で、避難者に「二重の住民登録」を求める理由を説明してください。
- (2) ①を読み、現代の「移動する村」により浮きぼりになる自治体（市町村）の課題と、自治体はその課題を乗り越えて信頼を回復する方法を示してください。
- (3) ②の【第 4 章】と【第 5 章】を読み、自治体の課題を乗り越える過疎地の試みの具体例とその意図を示し、あなたが考える課題・限界を簡潔に記述してください。  
③の【第 1 章の 1】を読み、都市部の試みの具体例とその意図を示し、またあなたが考える課題・限界を簡潔に記述してください。
- (4) まとめとして、自治体が信頼を回復することは可能か不可能か、あなたの考えを、あなたの身近な事例を用いて簡潔に記述してください。

※文字数の目安は、(1) 800 字、(2) 1,000 字、(3) 800 字程度、(4) 400 字程度

課題文献

- ①今井照（2014）『自治体再建 原発避難と「移動する村」』ちくま新書
- ②NHK スペシャル取材班（2017）『縮小ニッポンの衝撃』講談社現代新書
- ③日本経済新聞社編（2019）『限界都市 あなたの街が蝕まれる』日経プレミアシリーズ

## 経営学科

### ●課題 A もし自分が事業を立ち上げるならば？

新しいビジネスを生み出す「創業」という活動は、今日の経済社会において重要なファクターです。創業は世界中の製品やサービスに革新と改善をもたらしています。こうした活動がなければ新製品やサービスの多くは生まれることがなかったのです。テレビや自動車はもちろん、スマートフォンやインターネットのサービスもゲームアプリも、その多くは創業活動の成果です。

地域社会においても創業は不可欠のファクターとなっています。地方経済の沈滞を打開しようと、新しい地場産品や新商品作り、町おこし、海外観光客の誘致などの振興策が進められており、大災害からの復興のために新たな取り組みを続けている地域もあります。さらには、企業だけでなく国や自治体も住民も新しいことを企画し、付加価値を創出することが重要になっています。

しかしながら、ビジネスを起こしても事業の赤字が続いては存続することができません。どのようにしてプランを立ち上げて、その収入で費用を回収し、利益を上げられる事業にしていくかということに対して、創業は現実解を追求していくのです。

この課題レポートでは、「あなたが新しい事業を立ち上げるならばどのようなビジネスを始めるか」について、課題文献としてリストアップした資料と書籍を参考にしながら、以下のステップで考察し、まとまりのあるレポートを 3,000 字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ文献や参考にした情報は、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) レポートは、①事業の内容、②事業の可能性と意義、③事業の目標、④事業を立ち上げるプロセス、⑤事業遂行にあたっての課題、の 5 項目に分けて、各項目をできるだけ具体的に記述してください。
- (2) 以上の項目以外に条件は設けません。小さな取り組みも地域のビジネスも候補の一つです。あなた自身の関心と視点から事業を構想し自由に表現してください。

### 課題文献

- ①中小企業庁「創業者事例集 ～想う・繋げる・実現する～」
- ②中小企業庁「平成 30 年度版 夢を実現する創業」
- ③中小企業庁「中小企業白書（2014 年版）第 3 部第 2 章 起業・創業 ―新たな担い手の創出―」
- ④井上達彦（2019）『ゼロからつくるビジネスモデル』東洋経済新報社
- ⑤堀新一郎ほか（2020）『STARTUP 優れた起業家は何を考え、どう行動したか』NewsPicks パブリッシング

※①～③についてはインターネット（<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/index.html>）からダウンロードできる。

上の 5 つの文献をすべて使用する必要はない。

## ●課題 B クラウドファンディングの普及

近年、クラウドファンディングという新しい資金調達の仕組みが注目を集めています。クラウドファンディング (crowdfunding) とは、群衆を意味する「crowd」と、資金調達を意味する「funding」を組み合わせた造語で、井上 (2020) によると、「インターネット上のプラットフォームを介して不特定多数から資金を集める仕組み」と定義されます。

このクラウドファンディングについて、課題文献としてリストアップした書籍 (①～④) に依拠して、次のステップで考察し、まとまりのあるレポートを 3,000 字程度で執筆してください。課題文献を含め、読んだ本や参考・引用したデータや文献については、参考文献として必ずレポートの末尾に明記してください。

- (1) クラウドファンディングの社会的価値はどのようなものであるか、またその社会的価値の源泉について説明してください。
- (2) クラウドファンディングの認知度や利用率について、課題文献④に記載されたデータに基づいて、その特徴を説明してください。
- (3) あなたが興味を持ったクラウドファンディングの具体的なプロジェクトについて説明してください。プロジェクトの内容について説明するだけでなく、クラウドファンディングで資金調達を行った理由についても説明してください。
- (4) クラウドファンディングが抱える課題を整理し、その課題に対する解決策を提案してください。

### 課題文献

- ①佐々木敦也 (2016) 『KINZAI バリュー叢書 ザ・クラウドファンディング』金融財政事情研究会
- ②井上徹 (2020) 「我が国におけるクラウドファンディングの課題と可能性」『季刊 個人金融』, 2020 年秋号, pp.22-33
- ③丸山隆平 (2018) 『中小企業のためのクラウドファンディング入門』経済産業調査会
- ④総務省「情報通信白書 (平成 28 年版)」